



横浜市立釜利谷東小学校 7月号

学校便り

TEL 045-783-9398 FAX 045-701-9817 令和2年6月30日

ひがしの願い

ひとつの命

がんばる心

しんじあう仲間

「当たり前のこと」を「当たり前」に

校長 皆川 誠

夏至を過ぎ、梅雨の晴れ間の日差しが一段と強くなったように感じます。外出自粛等、普段とは違う日常を過ごしてきた私達ですが、この間に、季節は、桜から新緑、紫陽花へと、普段と変わらぬ歩みを続けています。学校では、いよいよ今月から通常授業に戻り、給食も始まります。

6月には学校が再開されたものの、第1期はクラス半分ずつの分散登校、そして第2期は一斉登校ではありますが午前授業というように、児童にとっても、職員にとっても、通常授業へ向けたステップ期間でした。

これまで、教育委員会より出された「教育活動の再開に関するガイドライン」に基づいて、本校でも、新型コロナウイルス感染症に向けた対応をしてまいりました。例えば、一人ひとりの間隔をとるために、昇降口前や流し場の前に整列場所の目印をつけたり、手洗いを徹底するための時間を確保したりしてきました。

こうした中で、私が驚かされたことがあります。それは、昇降口前の子どもたちの並び方です。分散登校初日より、昇降口の混雑を防ぐために、そこへ向かう通路に学年ごとの整列ラインを引き、そのラインに1m間隔で印をつけて、そこで順番を待つよう指導しました。それを2週間（1日おきの登校なので、実質5日）続けていると、子どもたちにとっては、それが当たり前の動きになっていました。というのも、第2期の一斉登校になった初日、子どもたちは、何も言われなくても学年ごとのラインに自然に並んでいました。その姿は、まるでジュニアカップ（運動会）の入場行進を見ているかのようでした。

また、朝、子どもたちを迎えていると、お辞儀をしながら挨拶する子や、目と目を合わせて挨拶する子も見られました。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため人とかかわる機会が少なかったせいもあるのか、臨時休業前に比べると、このような気持ちのよい挨拶のできる子が減っているように感じ、残念な部分もありました。

さて、7月というと水泳学習の時期ですが、今年度は実施できなくなりました。また、夏休みが近づき、いつもなら楽しい計画を立て始めている時期でもあると思います。今年度は、授業時数確保のため、夏季休業が8月1日～8月16日の16日間と、大幅に短縮となりました。子どもたちの楽しみが、また一つ減ってしまいました。これまで「当たり前」と思っていたことが「当たり前」にできる、そのような日常が早く戻ってきてほしいと願っているところです。